

基本的な進路指導の流れ（高等部）

●現場実習のステップ（例）

高等部 1 年 「自分や会社を知る」 職場見学 職場体験 校内実習 現場実習等	高等部 2 年 「自分の適性を見つける」 現場実習 前期：6 月～7 月頃 後期：9 月～12 月頃 1 事業所：生徒 1 名 2 週間程度	高等部 3 年 「自分の進路を決める」 現場実習 前期：6 月～7 月頃 後期：9 月～12 月頃 1 事業所：生徒 1 名 2 週間程度
---	--	---

●現場実習の流れ（例）

	事前学習		現場実習期間 (2 週間程度)	事後学習
生徒 保護者	・進路学習	・事業所見学 ・面接 ・打合せ	・現場実習 (実習日誌)	・面談、課題把握 ・進路学習 ・移行支援会議 (事業所、本人、 保護者、支援機関と 卒業時に実施)
教員 (学校)	・職場開拓 ・職場訪問 ・現場実習依頼	・実習契約 (依頼書) (契約書)	・現場実習先巡回 (指導・記録) ・現場実習評価聴取 (評価票)	

令和 2 年度 公立特別支援学校高等部卒業生の 進路状況について

1. 特別支援学校高等部本科の卒業生

卒業生数 1, 0 5 8 人

【主な進路先】

就職 3 8 2 人 (36.1%)

福祉施設等 5 8 5 人 (55.3%)

[うち就労系障害福祉サービス支援事業利用
2 5 7 人 (24.3%)]

進学等 2 0 人 (1.9%)

在家庭等 5 3 人 (5.0%)

その他 1 8 人 (1.7%)

令和2年度 公立特別支援学校高等部卒業生の
進路状況について

2. 主な就職先の産業種

卸売業・小売業	96人 (25.1%)
製造業	51人 (13.4%)
サービス業	50人 (13.1%)
運輸業・郵便業	42人 (11.0%)
医療・福祉（介護）	36人 (9.4%)
宿泊業・飲食サービス業	28人 (7.3%)

過去3年間の各年度卒業生の進路状況

	平成30年度		令和元年度		令和2年度	
卒業生数	1,032人		985人		1,058人	
就職	422人	40.9%	359人	36.4%	382人	36.1%
福祉施設等	539人 その内 就労系障害福祉 サービス利用 264人	52.2%	563人 その内 就労系障害福祉 サービス利用 245人	57.1%	585人 その内 就労系障害福祉 サービス利用 257人	55.3%
進学等	17人	1.7%	22人	2.2%	11人	1.0%
在家庭等	42人	4.1%	30人	3.0%	53人	5.0%
その他	12人	1.2%	11人	1.1%	18人	1.7%

代表的な離職理由

- 就労意欲の低下

例：業務内容とのミスマッチにより就労意欲が減退（多数）
通勤時間の負担感から離職

- 人間関係・コミュニケーションの課題

例：職場の方とのコミュニケーション・人間関係がうまくいかず離職（多数）

- 職場への不適應

例：職場で問題をおこし離職

- 別の職種に転職

例：条件のよい他の職種を希望し転職、スキルアップを目的に他の職種に転職

- その他

例：生活面の課題、社会的問題行動、健康面の影響、会社の都合、家庭の事情
コロナの影響、県外へ転居、自己都合、試用期間の終了 等